甲状腺に関する基礎的情報
甲状腺被ばく

避難集団の被ばく－チョルノービリ原発事故－

国	人数（千人）	平均実効線量（mSv）		平均甲状腺線量（mGy）
		外部被ばく	内部被ばく（甲状腺以外）	
ベラルーシ	25	30	6	1,100
ロシア	0.19	25	10	440
ウクライナ	90	20	10	330

mSv：ミリシーベルト　mGy：ミリグレイ

出典：国連科学委員会（UNSCEAR）2008年報告より作成

チョルノービリ原発事故に際して避難を余儀なくされた人々では、甲状腺の被ばく線量は高く、平均で約490ミリグレイと推定されています。避難地域以外の旧ソビエト連邦に居住していた人々の平均甲状腺被ばく線量は約20ミリグレイであり、そのほか欧州諸国に暮らす人々の線量（約１ミリグレイ）よりもはるかに高い結果になりました。

子供では平均甲状腺被ばく線量がさらに高いと推定されています。これは、事故直後から２～３週間にわたって、ヨウ素131で汚染した牛乳を飲んだこと等が主な原因です。

甲状腺被ばく以外の内部被ばくと外部被ばくの実効線量は、平均で約31ミリシーベルトでした。それぞれベラルーシでは約36、ロシアでは約35、ウクライナでは約30ミリシーベルトでした。平均甲状腺被ばく線量同様、平均実効線量はウクライナやロシアよりもベラルーシにおいて高いことが分かっています。

（関連ページ：上巻P138「小児甲状腺がんの発症時期－チョルノービリ原発事故－」）

本資料への収録日：2013年３月31日
改訂日：2024年３月31日